

教科(科目)	芸術（美術Ⅰ）	単位数	2単位	学年	1学年
使用教科書	光村図書『美術1』				
副教材等					

1. 学習目標

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

2. 指導の重点

- ① 生徒の主体的・意欲的な取り組みを促進し、基本的な技術の習得を目指します。
- ② 作品制作を通して、表現する喜びを体得させます。
- ③ 優れた美術文化や作品を鑑賞し享受する力や態度を養います。

3. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表している。 	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。

4. 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・提出作品 ・レポート内容 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・提出作品 ・レポート内容 ・制作中の創意工夫 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の制作姿勢 ・準備、片付け等の取組姿勢 ・提出作品、レポート内容 などから、評価します。

5. 学習計画

月	単元名	時数	領域	教材名	学習内容（指導内容）	観点	評価方法
4	鉛筆で描く	1	表現	オリエンテーション グレースケール 鉛筆デッサン 人物クロッキー	・授業への心構えを自覚させる。	c	制作姿勢
		1			・道具づくり、導入として鉛筆に慣れる。	a	提出作品
		2			・観察による発見を描写する。	b	レポート内容
		2			・授業開始時に毎回行う。	c	制作姿勢
5	色彩の特徴	2	表現	色彩表現 (中間考査)	・明度、色相、彩度の関係を学ぶ。	a	提出作品
		4			・デッサンでの経験をふまえ、描写する。	b	レポート内容

6	油彩で描く	2	表現	油画	・油彩使用時の一連の流れを覚える。	a	中間講評 レポート内容
		4			・素材、色彩について理解し進める。	b	
					・表現媒体を通し、自己について考える。	c	
7	作品展示	6	表現	(期末考査) 額づくり	・聡慧祭に展示する準備をする。	c	制作姿勢
8		2			鑑賞	・油画と額縁との色彩関係について考える。	b
9	彫刻と 身近な デザイン	6	表現	木彫スプーン (中間考査)		・普段使っているものを観察する。	a
10		6			・道具の性質を活かして制作を進める。	b	
11	イメージを 組み合わせる	6	表現 鑑賞	シュルレアリスム (期末考査)	・自らも気付かない、無意識の領域から引き	b	創意工夫 レポート内容
					・出されたものを活かして作品を考える。	c	
12	デザインと 再構成	6	表現 鑑賞	コラージュ	・印刷物等の色や形を活かした表現。	b	作品提出 レポート内容
					・構成によるデザインの変化を認識する。	c	
1	目標を描く	6	表現	新年の誓	・配色を考え、工夫して構成する。	b	作品提出
2	観察による 表現	6	表現 鑑賞	模造での立体表現	・質感の違いを観察する。	a	作品提出 創意工夫
					・色彩の工夫による素材感の表現。	b	
3	生活の中の 美術	2	鑑賞	現代社会と美術	・身の回りの美術を考える。	c	制作姿勢
					・使用した用具や作品の持ち帰り。		

計64時間 (55分授業)

6. 課題・提出物等

・各制作作品、毎回行うクロッキー

7. 担当者からの一言

作品制作を通して自己と向き合い、豊かな発想を広げていきましょう。美術は、絵を描くことだけが全てではありません。

様々な課題に取り組むことで、より深く考え、工夫し、ものづくりを一緒に楽しみましょう。

(担当：小林 留奈)